

代々木病院の理念

ヒューマニズムにもとづく医療・介護の実践

くらしと健康

No. 695

1部60円

2025年 9月号

友の会会員は会費に含まれています

発行 東京勤労者医療会代々木病院

院長 河邊 博正

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷1-30-7

TEL 03(3404)7661

http://www.tokyo-kinikai.com/yoyogi

原水爆禁止世界大会へ事前取り組みと代表派遣

被爆80年の節目の年にくる核兵器の廃絶に向けて

被爆80年という節目の年での開催となった2025原水爆禁止世界大会。今年も広島・長崎がそれぞれメイン会場として開催されました。代々木病院から3名、代々木健康友の会から1名が渋谷原水協の代表団として8月7日から9日の長崎大会へ現地参加してきました。大会前の取り組みでは、事前学習や病院全体での千羽鶴作成、代表派遣と大会成功に向けての財政活動に旺盛に取り組まれました。

マンガやDVDで事前学習

大会参加前の事前学習として、マンガ『あの日、ヒロシマで』被爆後のヒロシマを生きた少女と軍医の話』とDVD『声が世界を動かした』ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産の継承センター設立に向けての学習しました。原爆によって多くの人が命を奪われ、生き残った人々もまた長年にわたる肉体的・精神的に苦しめられてきた事実、さらには、その苦しみに国が正面から向き合わず、救済や補償の手を十分に差し伸べようとしなかった現実



7日特別集会「被爆体験の継承と未来—被爆80年長崎のつどい」(長崎市民会館)

職員全体で財政活動と千羽鶴作成

代表派遣の職員3名を送りだすための財政活動と、長崎平和記念公園へ奉納するための千羽鶴の作成を職員全体で取り組んでいました。海



平和食堂で「中華丼」を販売 代表の海老原さん

みましました。財政活動では各職場から寄せられた募金のほか、栄養課の協力による「平和食堂」の開催で「やさしさ」を

原水禁長崎大会へ

8月7日～9日で長崎大会に参加しました。7日は、長崎市民会館で特別集会「被爆体験の継承と未来—被爆80年長崎のつどい」が開かれました。長崎で13歳の時に被爆された日本原水爆被害者団

老原さんは「核兵器禁止条約に参加する日本を」の分科会で、日本政府に核兵器禁止条約への署名を求めるとして、宮武さんは「被爆・核実験被害の実相普及、被害者援護・連帯、核実験被害者の支援」の分科会で、原爆被害者相談員として被爆者に寄り添った活動をされてきた相談員の原玲子さんのお話を聞きました。安藤さんは「気候危機、エネルギーと原発」の分科会で、人類を襲う気候危機や温暖化を加速させ地球環境を破壊する戦争と核抑止力の増強を止めるべく、内外のスペシャリストのお話を聞きました。

千駄の萱

この数ヶ月、世界も日本もトランプ劇場に振り回されてきた。まだまだ続いているが、それがもたらしたのを見たい

「デジタルサイネージ」導入 代々木病院玄関前 代々木健康友の会より寄贈



8月より、代々木病院本館玄関前に「デジタルサイネージ」を導入しました。代々木健康友の会より寄贈いただきました。

9日は大変な豪雨の中、職員や友の会から寄せられた千羽鶴を爆心地公園へ献納してきました。その後、長崎市民会館体育館で開かれたナガサキデー集会へ参加。日本被爆協の田中重光代表委員から「地球上の市民の一人ひとりが自分自身のこととして考え、核兵器も戦争もない世界に向けてともにがんばりましょう」と訴えられ、閉会となりました。

(2面へ続く)

ではどうか。先の選挙の結果、「〇×ファースト」をうたう勢力が台頭した。日本の場合、それは確固たる理念に基づくというより、今のところ場当たり的・迎合的な主張で大衆の不安をおさめる程度の存在であるが、ファシズムも最初はそうだったのだ。自国民を第一に考えることは悪いことではない。だが、そのことによって誰かを、何かを排除する社会にな